

糸島市消防団芥屋分団長  
持田 豊和 さん(37歳)

消防団を元気にし、  
地域に活気と安心を



芥屋分団長として地域防災に貢献している持田さん

# 糸島人

Itoshima Bito

vol. 12

空気が乾燥し、火災が発生しやすい季節。例年、この時期、消防団による年末警戒が実施され、市民に注意を喚起している。

火災や水害が発生した際、日ごろの訓練や土地勘を生かして被害の拡大を防いでいるのが消防団だ。現在、糸島市では14分団、約千人が消防団員として地域の防災活動に貢献している。

芥屋分団長の持田さんも、25歳の時に芥屋分団に入団。糸島市内の企業に勤務しながら、毎月2回のポンプ点検の他、平素から消火・水防などの訓練を行っている。

このような地域における緑の下の力持ちである消防団員の数は、近年全国的に減少傾向が続いている。糸島市でも、かつては自営業者や市内勤務者が支えていたが、進学・就職を機に若年層が市外へ流出しており、団員確保が困難な状況だ。団員らの努力で何とか定員を維持しているが、持田さんは「自分は勤務先にも消防団経験者がおり、

周りの理解によりある程度の融通は利く。しかし平日昼間に出動できるのは自営業者ら数人に限られるのが現状」。また「以前は対象者の名簿を基に勧誘を行っていたが、最近では個人情報保護の観点から、それができなくなった。少子高齢化が急速に進む現在、団員の確保は非常に困難」と活動の難しさを語る。

「消防団では飲酒を強要されるイメージを持たれることがあるが、最近ではそのようなことはない。活動を通じて、二回りも年の離れた先輩・後輩と知り合い、人間関係の幅が広がっている。地元を守るという意味で、本来なら20歳になれば誰もが入団すべ



梅雨期の大雨に備えて行われる土のう積みなど、実践さながらの水防訓練



火災現場を意識して、ポンプ・ホースを操作する上での正確さ、機敏さを競う操法大会

きではないだろうか。市や行政区には、地域全体で消防団を支える体制づくりを考え「ほしい」とも訴える。

東日本大震災以降、地域防災の重要性が改めて見直されており、そのコミュニティの核となるのが消防団である。防災活動以外にも、夜警や地域の祭りへの協力など、消防団はさまざまな形で地域活動を支えている。こうした活動を将来にわたり持続させるためには、消防団員の地道な活動に対する社会全体や市民一人ひとりの理解と協力が不可欠だ。

## NPO法人 ぴあnet

情報格差が生じているシニア世代がパソコンに気軽に触れ、また気軽に質問でき、同じ趣味を持つ仲間と和やかに学び合える場所を提供しています。その知識や技術を地域活動・趣味に生かすことを目的に、パソコンサロンが継続的なシニアの交流の場になるようめざしています。

問い合わせ ☎(323)4696 (川口)



## 糸島ひよっこ踊りの会

この会は、会員の人間性の向上をめざすとともに、交流の輪を広げ、社会に貢献する目的で結成されました。地域の祭りや社会福祉施設の慰問、その他さまざまな行事に協力しています。

毎週、いろいろな踊りの練習を重ねて、まずは糸島から元気にしたいと頑張っています。

問い合わせ ☎090(8400)0346



# 市民提案型 まちづくり事業団体の紹介

市では、地域課題の解決につながる活動を支援するため、市民活動団体が提案実施する事業に補助を行っています。

## くり愛グループ

糸島市志摩芥屋でしか育たない「芥屋かぶ」を使った料理の幅を広げ、情報発信することで、地元の活性化を図っています。

また、この事業をとおして、生産者と消費者がお互いに協力し合い、交流の輪が広がることを願っています。

問い合わせ ☎(328)0235 (東)



## 里山を守る会

地域の高齢者が集まり、ボランティア活動をとおして地域の里山を守るために活動しています。有田神社周辺の竹藪を整備して、新たな自然環境として神社と一体化した公園づくりを進めています。小学生、保育園児および他地域の人たちとのタケノコ狩り体験をとおして、地域交流の促進を図ります。

問い合わせ ☎(323)0613 (有田)



全体に関する問い合わせ 糸島市地域振興課 ☎(332)2062